

## 平成31年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

### 1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：石垣市

島名：石垣島

協定対象漁業集落名：石垣市漁業集落

交付額合計：30,464,000円

(1) 基本交付金：30,464,000円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0円

協定参加世帯数：295世帯(368人)

(うち漁業世帯数：224世帯)

### 2. 協定締結の経緯

石垣市周辺海域において、乱獲や漁場環境の悪化等により魚介類の減少や魚価の低迷が続いている現状にあって、漁業者の高齢化及減少等の課題を抱えているため、種苗放流、漁場の管理・改善等、漁場の生産力の向上に関する取組と高付加価値化や新たな漁具・漁法の導入等の漁業の再生に関する実践的な取組を実施することにより、地域漁業の活性化を図り漁業所得を向上させ、漁業世帯数及び漁業就業者数の維持と集落の漁業生産活動によって発揮される多面的機能の確保を目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

### 3. 取組の内容

#### ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

##### ア パヤオ製作・設置・管理

曳き縄漁業による漁獲量の安定供給を図るため、パヤオを作製・設置した。また、パヤオの保守点検を実施することで操業の安定化を図ることとした。

##### イ サメ駆除

サメによる漁獲物の横取りや漁具被害等があるため、サメ駆除を実施して生産性の向上及び安全操業の確保を図ることとした。

##### ウ 資源管理

ナミハタ等の魚類が産卵時期に一斉に水揚げされるなど乱獲等により減少している資源の回復を目的に、八重山周辺海域5個所で全魚種を対象とする禁漁区を設け、資源の回復と漁獲量の増大を図るため資源管理の取り組みを行うこととした。

##### エ フグ駆除・網被害対策

魚類養殖場では養殖網をサメ等に食い破られヤイトハタが逃げ出す被害があるため、サメ被害防止用の網で生け簀全体を囲うことで生産性の向上に繋がるか検証することとした。

## ②漁業の再生に関する実践的な取組状況

### ア 高付加価値化

夏場の生産が不安定になる海ぶどう養殖において、母藻管理手法等を調査するため県内他地区の先進地を視察することとした。

### イ モズク養殖技術の向上

八重山周辺海域に適したモズク種を探索する試験を行うため、モズク種付け用タンクを増設し、生産能力と養殖技術の向上を図ることとした。

### ウ ヒトエグサ生産技術の向上

ヒトエグサ生産技術向上のため、県内他地域の先進地を視察することとした。

### エ 流通体制改善

マグロ類の評価が県外市場において安定しない状況にあることから、魚体を冷やし鮮度を維持するための鮮魚ボックスを作製し、県外市場へ輸送できるよう流通体制の改善を図る取り組みを実施することとした。また、マグロ類の旨味成分の分析を実施し市場価値の向上を図ることとした。

### オ 体験漁業

漁業者の高齢化や後継者不足などの課題を抱えているため、小中学生に体験漁業や伝統行事であるハーリー体験を実施することで、漁業に興味を持ってもらい担い手の育成を図ることとした。また、高校生を対象に魚料理の体験教室を実施し魚食普及を図ることとした。

### カ イベント開催

地元で水揚げされた魚介類の地産地消を推進するため、「第18回お魚まつり」を開催し地元漁業者の取り組みへの理解と魚介類の消費拡大を図ることとした。

## 4. 取組の成果

交付金交付対象漁業者所得平均 854 千円

漁業集落漁業就業者数 295 名

## ①漁場の生産力の向上に関する取組の成果

### ア パヤオ製作・設置・管理

パヤオの新規設置2基、補修・点検等11回行い、延べ120人が作業に参加した。これによりパヤオの流出を防止することが期待できる。また、漁業全体の漁獲量が減少傾向にある中、パヤオ漁では平成25年実績(12t)から平成31年度2月末時点で(86t)と漁獲量を増大できており、効果があったと考えられる。

### イ サメ駆除

7月から8月にかけて計3回のサメ駆除を実施した。漁業者からは人的被害もなく漁具被害も減少し、安全操業ができているとの意見もあるが今後も被害数の推移をみながら引き続き検証が必要である。

### ウ 資源管理

全魚種を対象にした禁漁区域の設定により、乱獲を防いだことで未成熟個体の水揚げが減り、ナミハタ等の産卵により資源の回復が期待でき、生産性の向上が図られたと考える。

#### エ フグ駆除・網被害対策

サメ被害防止用の網を設置した結果、例年1回程度あるサメによる被害がなく、前年度水揚げ（5.9t）に対し平成31年度2月末時点で（5.5t）と概ね水揚げ量が維持できており、効果があったと考えられる。

### ②漁業の再生に関する実践的な取組の成果

#### ア 高付加価値化

母藻管理手法等を調査するため県内他地区の先進地視察を行い、次年度からの夏場の海ぶどうの生産性の向上に期待できると考える。

#### イ モズク養殖技術の向上

種付け用タンクを増設したことにより、新たな種付けの試験を行い養殖技術の向上を図っており、今後の生産性の向上に資すると考える。

#### ウ ヒトエグサ生産技術の向上

県内他地域の先進地を視察したことにより、技術の向上が期待でき生産性の増大に資すると考える。

#### エ 流通体制改善

マグロ類を船舶で県外輸送するため、長時間の輸送でもマグロの鮮度を保つ鮮魚ボックスを整備した。これまで空路に頼っていた輸送が船舶での輸送でも鮮度を維持したまま市場へ送ることができるようになるとともに、流通の経費を削減することや新たな市場の開拓にも繋がると考える。また、漁獲した日が異なる数種類のマグロの旨味成分の分析を実施し、ロイン加工されたマグロが最もよい状態で消費地に届けられるよう輸送日等を計算し発送することで流通体制も改善され効率化も図られた。

#### オ 体験漁業

4つの小学校の児童生徒を対象に午前中にハーリー体験、午後からは実際に水産物を調理して食し、伝統行事の体験と魚食普及体験を実施することで地域の漁業への親しみや魚食の普及が図られたと考える。また、中学生を対象に定置網漁業体験を実施し、漁業への興味を持ってもらうことで後継者育成に期待できると考える。さらに、女性漁業従事者が中心となり、高校生を対象に料理教室を開催し、魚のさばき方や魚料理を指導したことで、地元水産物の地産地消と魚食普及が図られたと考える。

#### カ イベント開催

漁業従事者の青年部や女性部が中心となって地元で水揚げされた水産物を低価格で販売する「第18回お魚まつり」を開催した。鮮魚や夜光貝などは売り切れがでるほどの盛況であった。また、水産資源を守る取り組みをパネル展示で紹介することで、地元水産業と漁業者の取り組みへの理解が得ることができたと考える。引き続き水産物の地産地消を推進し消費拡大が図られるよう実施したい。